

NEWS

ニュース

日本語教育学会、国立国語研究所、国際交流基金共催
2003年日本語教育国際研究大会
開催のお知らせ

テーマ：「21世紀の日本語教育現場を考える
— 共通性と相違性の探求 —」

日時：2003年8月8日(金)～9日(土)

会場：昭和女子大学(東京都世田谷区)

内容：第1日目 9:30am～5:30pm

<午前>シンポジウム1

「世界の日本語教室の現場

— 教授過程の現在と未来 —」

(登壇者) J.V. Neustupny、宮副ウオン裕子、
Kylie Farmer

<午後>シンポジウム2

「世界の日本語教育のあしたを語る」

(登壇者) 国内外の日本語教育学会・教師会の代
表者

第2日目 10:00am～5:00pm

<午前>教育現場活性化のためのワークショップ
・セッション

9つのワークショップ(1.教師の役割と研修
2.日本語教育のための文法 3.アカデミック・
ジャパニーズ 4.ビジネス場面の日本語 5.テ
ストと評価 6.日本語指導と習得 7.日本語教
育のための社会言語学 8.年少者・中高生の日
本語教育 9.コンピュータ利用教育)が行われ
る。各自、自由に各セッションに参加。

<午後>研究発表会

*大会中に同会場にて、世界の日本語教材展も開
催される予定です。

参加料：6月30日(月)までの申し込み

一般(4,000円)、学生(2,000円)

7月1日(火)以降の申し込み

一般(5,000円)、学生(3,000円)

申し込み方法：①氏名(要ローマ字表記)②所属

機関③所属学会(要会員番号)④連絡先(住所・
電話・FAX・E-mail)を記載の上、以下の宛先
へ郵便、FAX、E-mailのいずれかで送付のこと
(電話での申し込み不可)。

申し込み先：〒101-0065 東京都千代田区

西神田2-4-1 東方学会新館2F

(社)日本語教育学会2003年国際研究大会係

Fax. +81-(0)3-5216-7552

E-mail. office@nkg.or.jp

*開催要項詳細は、日本語教育学会のウェブサイ
トを参照のこと。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/

「みんなの教材サイト」リニューアル

http://www.jpfgo.jp/kyozai/

「みんなの教材サイト」では、日本語教師が教
材作成に自由に活用できる日本語教材が手に入り
ます。公開後2年目を迎え、このたび、写真素材
を追加するなどのリニューアルをしました。

『写真パネルバンク』の「シリーズ1 衣食住と
道具」及び「シリーズ5 日常生活」の写真254
点が、テーマ、キーワード、品詞・文型などで検
索でき、説明文・解説文は、英訳も収録しています。

また、日本語教育に取り組む世界の人々と情報
やデータを共有し、コミュニケーションできる場
としても利用していただけますので、まずは、ゼ
ヒ、気軽にのぞいてみてください。



「総合日本語シラバス」の公開

国際交流基金日本語国際センターでは、海外日

本語教師短期研修の「総合日本語」の授業で利用
しているシラバスをホームページ上で公開してい
ます。

http://www.jpfgo.jp/j/urawa/

このシラバスは、4技能を統合した話題ベー
スのタスク・シラバスで、外国人日本語教師が2ヶ
月という短い研修中に、日本文化や日本事情の理
解を伴いながら日本語運用力を上げられるように
工夫しています。次の11の話題を採用しています。

自分・家族・家	趣味・スポーツ
食べ物・飲み物	買い物
健康	旅行
一日の生活・労働	学校・教育
天気・季節・自然・環境	交際
異文化	

このシラバスは、これで完成というものではな
く、まだ課題もありますが、是非、多くの方に見
ていただいて、ご意見やご感想などがいただけれ
ば幸いです。

待望の全国組織 「韓国日本語教育研究会」の設立

2003年2月25日(火)に、「韓国日本語教育研
究会」の設立総会が国際交流基金ソウル日本文化
センターで行われました。

「韓国日本語教育研究会」は、現在、韓国各地
に16ある高校日本語教師研究会のうち、13の研
究会が賛同して発足した全国連合です。初代会長
にはソウル日本語教育研究会会長の趙成範(チョ
ンボム)氏が選出され、事務局は同研究会内に
設置されました。

各地の研究会は、会員の広がりおよびセミナー
や研修会等の活動範囲が、道や市などの行政単位
に限られていますが、全国連合の設立により、地
域を越えた教師間の情報交流が促進されるとも
に、高校生を対象とした、韓国独自の日本語能力判
定試験(JAT)や教師研修などの全国規模での実
施が可能となり、具体的な計画が進行中です。上
記設立総会においては、各地の研究会長はもちろん、
大学レベルの日本語教育を代表する来賓として
出席した韓国日本学会および韓国日文学会の両
会長からも、全国連合への期待が表明されました。

なお、国際交流基金ソウル日本文化センターは、
この「韓国日本語教育研究会」の設立準備事業に
対し助成金による支援を行いました。

編集部から

料理用語がわからない日本人が増えてきている
そうです。かくいう私も、今号のエッセイにある
「骨切り」「葛たたき」など、今回初めて耳にした
用語がいくつかありました。健康志向が高まり、
昔ながらの素朴な家庭料理や和食が見直されて
いる昨今ですが、カレーやスパゲティなど外国
料理が日常食となり、ファーストフードやインス
タント食品など手軽な食事に囲まれて育ってきた
世代にとっては、和食の調理法は、その用語と
もなじみの薄いものとなってしまっています。

でも、ちょっと視点を変えて見てみると、私
たち日本人が日常的に使っている慣用語の中には、
その語源が食材や料理に関するものがけっ
こあることに驚きます。例えば、「人のアラを探す」
「おせっかいをやく」「ゴリ押しする」「とどのつ
まり」「手前味噌」「ぐれる」などなど。一方、「半
月切り」「いちょう切り」「ささがき」「かつらむき」
「化粧塩」「しぐれ煮」等、調理法として使う言葉
は、日本の風土やものの見方、美意識といった文
化を色濃く反映し、一つの言葉から歴史的事象や
生活文化を知ること可能です。もし、これらの

言葉に興味のある方は、『なるほど、料理のこと
ば』(ベターホーム協会編・発行、2003年)をど
うぞ読んでみてください。料理用語の解説だけで
なく、その語源や食にまつわる慣用語の歴史、行
事食の説明や一般的な家庭料理のレシピも入っ
ており、様々な用途に役立つ便利な一冊となるこ
とでしょう。

また、料理の味そのものは日本語でどう表現
されているのかについてご関心のある向きには、
『ことばは味を超える』(瀬戸賢一編著、海鳴社、
2003年)をお薦めします。「深い味」「丸い味」
とは言うけれど、「広い味」「四角い味」とは言わ
ないのは何故かということや、日本語で「甘い判
断」と言うけれど、英語では「sweet decision」
とは言わないなど、味覚に関わる言葉を様々な角
度から分析し、言語学の素人でもわかるように解
説した好著です。

そして、最後に、今号のエッセイを書いてくだ
さった辰巳さんの随筆集『味覚日乗』(かまくら
春秋社、1997年)を挙げておきたいと思います。
ひと昔前の日本では当たり前にならなくなった、四
季折々を楽しむ日々の食生活の豊かさや素晴らし
さが、著者のこれまでの暮らしの思い出とともに
綴られています。所々に挿入されている料理の

カラー写真も、本の装丁も美しい一冊です。

今回の編集後記は、編集担当の独断と偏見によ
る「本はこ」番外編となっておりますが、少しで
も皆様のお役に立つことができましたなら幸いです。
(tt)

『日本語教育通信』第46号

2003年5月発行

編集・発行 国際交流基金

日本語国際センター 情報交流課

〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和

5-6-36

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa

(6-36 Kita-Urawa 5 Chome, Urawa-ku,

Saitama-shi, Saitama 330-0074, Japan)

TEL. 048-834-1184 FAX. 048-830-1588

E-Mail jfnckt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Japan Association for Cultural Exchange

(ACE Japan)

(表紙イラスト：村井宗二) 古紙100%再生紙使用